

# 小郡向築地遺跡 2

福岡県小郡市小郡所在遺跡の調査報告

小郡市文化財調査報告書第239集

2008

小郡市教育委員会

## < 序 文 >

小郡市ではこれまでニュータウン開発や工業団地造成などの大規模開発に対応して数多くの発掘調査を行ってきました。近年では市内の主要幹線道路整備に伴う小規模な開発や住宅建築も盛んに行われ、緊急発掘調査の対応により、小郡市全体の歴史像が次第に明らかになりつつあります。

今回報告する「小郡向築地遺跡2」は、範囲も限られた小規模な調査ではありますが、多紐細文鏡の出土した「小郡若山遺跡3」からの遺跡の広がりが確認され、新たな資料を加えるものとなりました。残念ながら遺跡は開発と引きかえに消失することになりましたが、今回の発掘調査が生かされるとともに、今後の文化財保護の向上に役立つことを願ってやみません。

調査にあたりましては、地権者の赤坂昭憲さん並びに赤坂昭彦さんには深いご理解とご協力を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

平成20年3月31日

小郡市教育委員会

教育長 清武 輝

## < 例 言 >

1. 本書は、福岡県小郡市小郡字向築地 567-1・569-1 の一部における店舗建設に伴い消滅する埋蔵文化財について、平成19年度に小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 本書に掲載した遺構・遺物実測は、担当（佐藤）が行い、製図は吉田あや子・熊本佳奈が行った。
3. 遺構写真は佐藤が撮影し、遺物の写真は「写真工房 岡」の岡久夫が撮影した。
4. 遺構実測図中の方位は真北を示し、座標は国土座標によっている。
5. 本文並びに写真図版における遺物番号は、挿図における番号を示す。
6. 本書の執筆・編集は佐藤が行い、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管管理している。

## < 本文目次 >

第1章 調査の経過と組織	1
第2章 位置と環境	1
第3章 遺構と遺物	3・4
報告書抄録	6
第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第2図 小郡向築地遺跡2位置図 (1/2,500)	2
第3図 調査区周辺地形図 (1/500)	3
第4図 K-1 土層断面図 (1/40)	3
第5図 遺構配置図 (1/80)	4
第6図 出土遺物実測図 (1/4、※1/2、▲1/3)	4
写真図版 (発掘調査写真及び遺物写真)	5・6

## 第1章 調査の経過と組織

小郡向築地遺跡2の調査は、店舗建設に先立ち小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無について照会があったことに始まる（審査番号7022）照会を受けて平成19年5月16日と6月5日に試掘調査を行った結果、遺構が確認されたため埋蔵文化財に関する調整が必要となった。なお、当該地は住宅や養豚施設があったこと、地権者による植木の植栽が頻繁に行われていたため、遺跡の残存状況が大変悪く、確認された範囲はごくわずかであった。協議の結果、遺跡が確認された範囲に店舗建設箇所がかかるため、工事の影響を考慮し遺跡を確認した範囲全体について発掘調査を行うこととなった。平成19年6月12日付で地権者の赤坂昭彦氏と埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、調査を実施した。

現地調査は、6月18日（月）に重機による表土剥ぎを行い、翌19日（火）より作業員を導入して遺構の検出と掘り下げを順次行った。21日（木）には調査区全体の写真撮影を行い、翌週の26日（火）27日（水）で実測作業を行った。28日（木）には重機による埋め戻しを行い、現地作業を終了した。報告書は同年度中に作成した。

調査の体制は以下のとおりである。

（平成19年度）

小郡市教育委員会	教育長 清武 輝
教育部	部長 池田清己
文化財課	課長 田籠千代太
	係長 重松正喜
	企画主査 片岡宏二
	技師 佐藤雄史

〔現場作業員〕小川高征・田中賢二・森下弥寿治

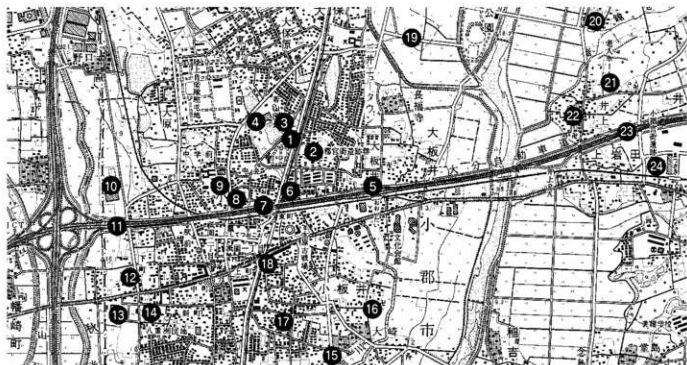
## 第2章 位置と環境

小郡向築地遺跡2は、宝満川の西岸、三国丘陵からなだらかに続く低台地上に位置する。当地の南西側には谷部が入り込み地形が落ち込んでいる。当地はこの谷部に面した低台地の落ち際部分にあたり、現況での標高は17.00～18.00m程である。先述したように、試掘調査では住宅や養豚施設の解体に伴うものと思われる攪乱や廃材の埋め込みが多く検出され、全体の土地自体も谷側にかけて盛土が厚く施されている状況が確認された。また、植木植栽による植え込み・抜根作業の繰り返しにより、地山面に達する数多くの攪乱を受けている状況であった。

当地周辺では、市内でも主要な遺跡がいくつか調査されている。まず、西鉄大牟田線の線路を挟んだ東側には国指定史跡の小郡官衙遺跡（小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡 上岩田遺跡）が所在し、7世紀中・後半～8世紀中・後半にかけての三期にわたる官衙遺構の変遷が明らかにされ、古代筑後國御原郡の郡役所に比定されている。小郡官衙遺跡周辺では正倉群（大板井遺跡X）・集落（向築地遺跡）・官道（小郡前伏遺跡）・周縁地における版築状盛土による造成跡（大板井遺跡18B）等、様々な関連遺構がこれまでに見つかっている。

線路西側では、これまでに小郡若山遺跡が6区にわたり調査されている。この内、小郡若山遺跡3では弥生中期前半から中頃にかけての集落が調査され、集落内より多紐細文鏡二面を埋納した土坑が検出されている。近隣では小郡官衙遺跡・小郡中尾遺跡2・大板井遺跡等でも同時期の大規模な集落や墓場が確認されており、当地周辺における拠点集落の存在を物語っている。弥生中期以降は、弥生後期と7～8世紀に集落形成のピークが見られるが、小郡若山遺跡でもこれまでに小郡官衙併存期の集落が確認されており、その関連が注目されるところである。

小郡向築地遺跡2は、これら小郡官衙遺跡と小郡若山遺跡群の周辺地にあたり、残存状況は悪かったものの、今回の調査でも関連する遺構の一部を検出することができた。



- |             |             |             |              |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 小郡向築地遺跡2 | 7. 小郡前伏遺跡   | 13. 福童山の上遺跡 | 19. 大保横枕遺跡   |
| 2. 小郡官街遺跡   | 8. 小郡大保道遺跡  | 14. 小郡堂の前遺跡 | 20. 下鶴古墳     |
| 3. 小郡若山遺跡   | 9. 小郡中尾遺跡   | 15. 大崎小園遺跡  | 21. 井上南内原遺跡  |
| 4. 小郡中尾遺跡2  | 10. 小郡川原田遺跡 | 16. 小板井屋敷遺跡 | 22. 井上庵寺     |
| 5. 大板井遺跡    | 11. 小郡正尻遺跡  | 17. 大崎井牟田遺跡 | 23. 井上東蒸師堂遺跡 |
| 6. 向築地遺跡    | 12. 小郡野口遺跡  | 18. 小板井京塚遺跡 | 24. 上岩田遺跡    |

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 小郡向築地遺跡2位置図 (1/2,500)

### 第3章 遺構と遺物

発掘調査は、遺跡を確認した範囲(39.3 m)について実施した。検出した遺構は、土坑が2基とピットが14穴余りである。第5図の遺構配置図にも示しているとおり、攪乱がひどく残存していた遺構検出面はわずかである(遺構検出面の標高は、17.00~17.25m)。遺構検出面の地山は、上面が黄褐色土で、下層に行くにつれて灰褐色の砂となる。攪乱のほとんどが灰褐色の砂に達していた。

#### K-1 (第4・5図)

調査区中央やや南側からの検出である。部分的な検出のため全体の形状は不明だが、検出部分では隅丸長

方形の平面形をなす。北側で切り合っているピット状の落ち込みを外して幅1.45m、深さ50cmを測る。紹介した遺物は8点で、6-3~6-7は埋土上層から、6-8・9は下層からの出土である。6-3は弥生中期の壺で、胴部に交帯3条を巡らす。調整は外面をヨコナデ、内面はナデと思われる。6-4は弥生後期の器台の口縁部である。調整ははっきりしないがけデもしくはヨコナデである。色調はいずれも淡赤褐色をなす。6-5~6-8は須恵器甕の破片で、外面には擬格子タタキを、内面には同心円タタキを施す。いずれも焼成は良好で、色調は灰色から青灰色をなす。6-9は須恵器蓋杯の身の口縁部である。全体形状は不明であるが、7~8世紀代にかけてのものと考えられる。色調は淡青灰色をなす。6-10は鉄釘としたが、残存長5.1cmで、幅9mm、厚さ4mmとやや扁平である。先端部でも6.5mm程度の幅を有し、釘とは異なる可能性もある。木質等は確認できなかった。

#### K-2 (第5図)

K-1の南東側に切り合う落ち込みを土坑として扱ったものである。埋土は淡い黄茶褐色土で、K-1に切られる。完掘した状態では、ピット2穴とピット状の落ち込みが複合したもので、整美な形状をなさない。検出幅0.7m、深さは20~30cm前後である。遺物は、石包丁1点が出土した。材質は暗灰色の粘板岩ホルンフェルスで、厚さ8mmを測る。全面を磨きあげ、幅7~9mmの刃を磨き出している。

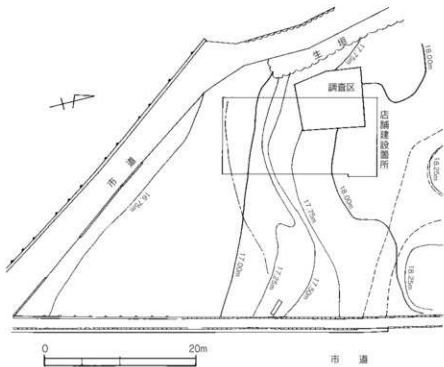
#### K-3 (第5図)

調査区西側で検出した落ち込みで、全体の形状は不明である。検出長1.4m程で、深さは20cm程度と浅い。遺物は出土していない。

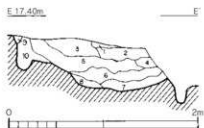
#### ピット (第5図)

埋土は茶褐色系の土質からなる。残存状況も悪く、形状もまちまちであるが、径15~40cm、深さは残りの良いもので40cmを測る。並びをなすものや、柱痕を有するものは確認できなかった。遺物は、P-2から弥生中期の甕の口縁部が(6-12)、P-4からは土師器の高坏片が出土した(6-13)。

なお、出土遺物の内、6-1と6-2は表土剥ぎ段階で採取したものである。

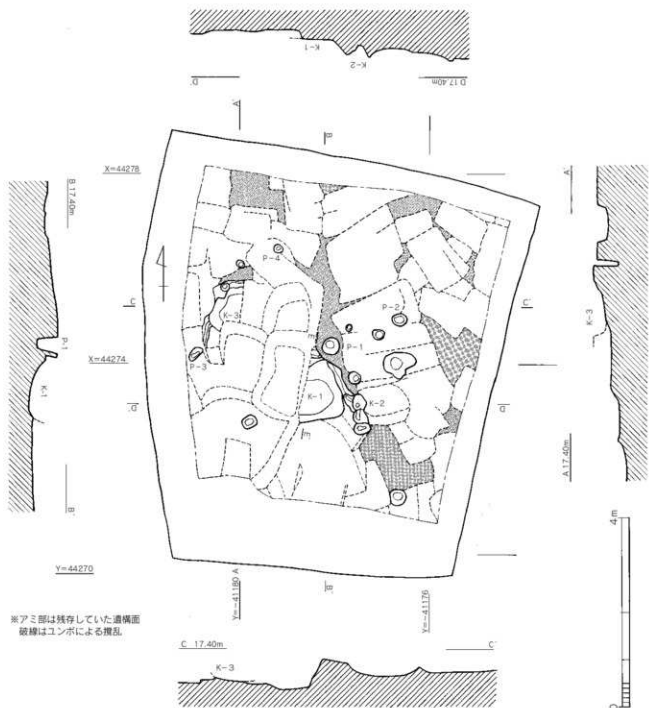


第3図 調査区周辺地形図 (1/500)

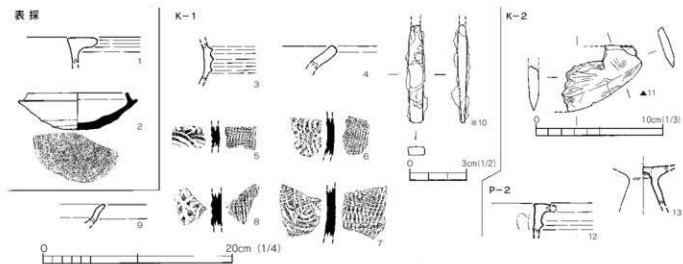


1. 黄褐色土
2. 黄褐色土(土器片含む)
3. 黄褐色地山ブロックを少量含む黄褐色土
4. 黄褐色土
5. 黄褐色土(黄褐色灰褐色地山ブロックが混ざり)
6. 黄褐色土(灰褐色地山ブロックをわずかに含む)
7. 灰褐色地山ブロックを含む暗褐色土
8. 黄褐色地山ブロック土(黄褐色土ブロックをわずかに含む)
9. 黄褐色土(地山よりやや硬い)
10. 黄褐色土

第4図 K-1土層断面図 (1/40)



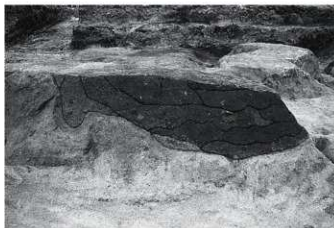
第5図 遺構配置図 (1/80)



第6図 出土遺物実測図(1/4、※1/2、▲1/3)



① 調査区全景（線路の向側が小郡官衙遺跡）



③ K-1 土層断面



② 調査区全景（北から）



④ K-1



6-2



6-10



6-1



6-12

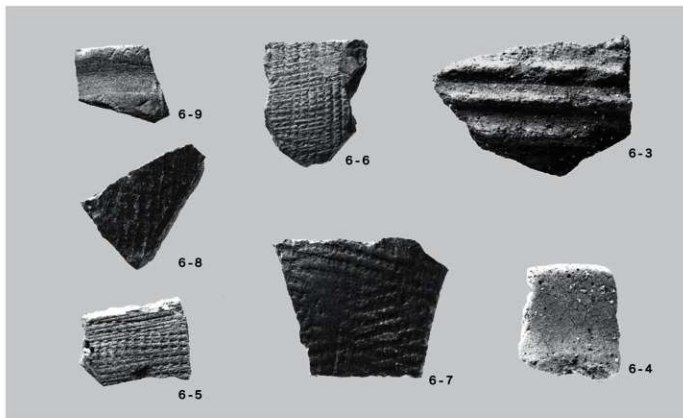


6-11



6-13

表採土器及びK・P出土土器（鉄器）



K-1出土土器

ふりがな	おごおりむこうちいせき に							
書名	小郡向築地遺跡 2							
副書名	福岡県小郡市小郡所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第239集							
編著者名	佐藤雄史							
編集機関	小郡市教育委員会文化財課 小郡市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒838-0106 福岡県小郡市三沢5147-3 TEL0942-75-7555							
発行年月日	2008年(平成20年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おごおりむこうちいせき 小郡向築地遺跡 2	ふくおかけん おごおりし 福岡県 小郡市 おごおり 小郡	40216		33° 23′ 54″	130° 33′ 26″	20070618 20070706	39.3㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
小郡向築地遺跡 2	集落	弥生時代 古代		土坑・ピット		弥生土器 須恵器 石器		

小郡向築地遺跡 2  
 小郡市文化財調査報告書  
 第 2 3 9 集  
 2008年3月31日  
 発行 小郡市教育委員会  
 福岡県小郡市小郡 255-1  
 印刷 信光社印刷有限公司  
 福岡県朝倉市一木 32-1